

作家莫言との対談テーマ その1

作家 v s 弁護士のフィールドの異同について

	作家とは？	弁護士とは？
(1)	莫言にとっての文学とは？ 体験をもとにしたでっちあげ。想像の世界。虚構の世界。	坂和にとっての法律とは？ 証拠にもとづいて客観的に説得する武器。
(2)	登場人物は？ すべて作家の自由。	当事者は？ 弁護士はあくまで受け身。依頼者あつての弁護士。
(3)	作品のテーマは？視点は？ すべて作家の自由。	作品のテーマは？視点は？ これも受け身。しかし掘り下げ方によって弁護士の能力の相違が。
(4)	構成力 莫言はいかにしてこんな複雑な構成力を身につけた？	構成力 事件の推移を見通す構成力と複雑な事実関係を整理し証拠にもとづいて依頼者の言い分をまとめる準備書面の構成力がポイント。
(5)	しゃべる能力は？ 作家には本来不要？しかし実はすぐれた作家が多い。それはなぜ？	しゃべる能力は？ 弁護士には不可欠。しかし、書き弁としゃべり弁、両方備えているのは難しい。とりわけ証人尋問によって真実を引出しウソをあばく能力が大切だが・・・。

作家莫言との対談テーマ その2

莫言の孤独と飢え v s 坂和の孤独と飢え

< 孤独 >

1) 坂和の小学生時代

父親厳格。暴力ふるう。2人兄弟。教育熱心。食べ物の好き嫌いダメ。便所そうじ。5時に家に帰ってくる。

そこから逃避。自分の世界へ。

2) 中学時代

食事は一人で。友達はラジオと『映画の友』『スクリーン』

ラジオは、「全国歌謡ベストテン」、森繁久弥と加藤道子の「日曜名作座」、連続ラジオドラマ(ex「淀どの日記」)など

高1までテレビはなかった。そのため中学時代は「夢であいましょう」を観ていない。高1から「ロッセ 歌のアルバム」「てなもんや三度笠」など。

3) 大学時代

はじめて自立。学生運動に没頭。友人との連帯。まさに五木寛之『青春の門』の世界。また小説をじっくりと。クラス討論で議論を、ピラ書きで書く技術を、またセクト対立で組織づくりを勉強。

しかし学生運動に挫折。司法試験へ。独りぼっちの受験勉強だが孤独ではなかった。なぜなら、はじめて勉強が面白いと感じ、自主的に勉強したため。学生運動で培われたしゃべる能力と書く能力のおかげで超短期合格。

4) 修習生時代

公害反対などの理想に燃えてあくまで前向き。青法協での連帯感。

5) 弁護士登録後

公害から環境へ。そして都市問題へ。まさにこれぞ自分の天職と確信。収入も十分。しかし、あえて弁護士会の主流派から決別！一匹狼の道へ！

その分自分のテーマを模索。

都市問題、 映画、 中国旅行・・・etc.

< 飢え >

戦後生まれだから本当の飢えは知らない。しかし貧乏だったという印象は強い(教育費は出してくれたが貧しかった)。

服はつぎはぎ？

自転車はオンボロ？

食事は貧しい？(寿司やステーキは夢のまた夢。せいぜいカレーとオムライス?)

作家莫言との対談テーマ その3

歌は世につれ、世は歌につれ

坂和は誰よりも歌を知っている？カラオケ博士？

<なぜ歌をよく知っているのか？>

1) 幼少時代

バイオリン、笛、木琴など(音楽の基本)、クラシックレコード

2) 小学校低学年

4人家族でそれぞれ自転車に乗って道後温泉へ(家に風呂がないから)。その時父親から歌を聞かされた(軍歌、ナツメロ、定遠のうたを含む)。ソノシートを初めて聞いた。

道後温泉では正月に浴衣を着てお茶を飲むのが最大のぜいたく。

3) 小4から合唱部。中1から音楽に疎遠に。

4) 中学・高校時代のラジオ(前述)

5) 大学時代のラジオ

「ABCヤングリクエスト」などのオールナイト番組

6) ギターとフォーク(60年代)

7) クラシックレコード

大学時代はLPレコード数枚が超貴重品。弁護士になると何十枚も購入したが結局聴かないまま。

8) 修習生から弁護士時代

テレビの歌番組が大流行り。久米宏「ザ・ベストテン」、スター誕生!」などアイドル全盛(今も?)

9) SPレコード カセットテープ CD MDと変遷

アイドル大好き(70年代、80年代、90年代)。カラオケ大好き。飲み屋でカラオケ。

10) iPodで新曲を仕入れて勉強(00年~)

作家莫言との対談テーマ その4

弁護士坂和の執筆活動の紹介（一部）

第1 『いま、法曹界がおもしろい!』

- 1 04年4月、司法改革の一つの柱である法科大学院がスタート。司法界が大激変する中で
の出版。
- 2 その特徴
 - ・第4章 弁護士像あれこれ
書き弁 v s シャベリ弁
依頼者迎合型 v s 依頼者教育型
 - ・第5章 はばたけ! 弁護士 より広い世界へ
こんな道、あんな道
 - ・第6章 坂和硫法律事務所経営術
依頼者あれこれ

第2 『がんばったで31年! ナニワのオッチャン弁護士 評論・コラム集』

- 1 以前から新聞や雑誌にコラムや評論を掲載してきた。
95年1月17日の阪神大震災直後、2月10日付朝日新聞「論壇」に「被災地復興は
多様なメニューで」を掲載。その後、日経流通新聞で「街づくり 私の視点」を連載す
るなど、震災復興・まちづくり・再開発について様々な執筆をしてきた。
- 2 本の「はしがき」にみる問題意識。これによって坂和の出版した本の特徴を説明。
- 3 他方、新日本法規の季刊誌『法苑』で映画評論をときどき執筆してきた。
- 4 これらの記事やコラムをまとめて出版。第2章の「第2節 旅行」で旅行記も掲載。

第3 『取景中国取景中国：跟着电影去旅行 (Shots of China)』

- 1 毛丹青のプロデュースで出版
- 2 中国映画の映画評論約200本、旅行記10回分を掲載
- 3 出版社が用意した写真をふんだんに使って出版。

第4 『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい!』中国語版の出版

- 1 2011年7月、毛丹青ゼミの中国人留学生による翻訳が完成
- 2 2012年夏出版予定